（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	北部こども療育センター			
○保護者評価実施期間	R8年　12月　1日	～	R8年1月30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	35名	（回答者数）	28名
○従業者評価実施期間	R7年12月1日	～	R7年　１2月１2日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	18名	（回答者数）	18名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年　3月　1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員は、保育園勤務の経験もあり、療育と保育園の両方の経験を活かして療育や保護者支援を行っている	・幼保支援課主催の研修や外部の研修に積極的に参加している ・大津市の3療育で合同の研修を行っている ・センター内でも内部研修を行っている ・近隣の施設と保育の交流を行っている	・今後も様々な機関の研修に参加し、自己研鑽し、発達や子ども理解、保護者支援などに関して学びを深めていく
2	・親子で畑に苗を植え、野菜を栽培・収穫し、食育に取組んでいる	・親子保育の中で野菜の苗を植えたり、収穫したりして、野菜や自然物に興味が持てるようにしている ・収穫したものを目の前でクッキングして、食に興味がもてるようにしている	・今後も親子保育で野菜の苗を植えたり、収穫したりして、興味が持てるようにしく ・クッキングを通して、五感で食に興味がもてるようにしていく
3	・自然豊かな環境を活かし、季節を感じながら、親子散歩に出かけている	・安全面に配慮しながら、親子散歩が楽しめるように活動に取り入れている	・親子だけでは、散歩に出かけることが難しい状況の家庭もあるので、近隣の自然豊かな場所に出かけて季節の自然物を見たり、触れたりする機会を設けていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・部屋数が少なく、フリールームが無い	・大津市が志賀町と合併し、志賀町の療育施設を大津市の療育施設として利用した。志賀町の療育形態は、併行通園であったが、大津市の療育形態は毎日登園であるため、部屋数がギリギリでフリールームや保健室がない状況である。	・学習会など複数のクラスの保護者が集う時は、近隣の公共施設の会議室やホールを借りている ・懇談が複数入っている時は、部屋がないため、パーテーションで仕切りをして、個人情報等に配慮しながら行うようにしている
2			
3			